### 感染状況に応じた体制の考え方

#### オミクロン株特別対応

 $(1/11 \sim)$ 

**<バージョンアップ>(1/21~)** 

#### 病床使用率(1/11時点) 861人 医療提供 入院 /6,919床 病床使用率 12.4% 新規陽性者数1,150人(1/12)

(療養者数6,379人(1/11))

区分		人数
入院		861人
宿泊療養		1,818人
	自宅療養	3,699人
健康	各保健所	約21,000人
観察	都FUC	約24,000人
体制	地域の医療機関	約15,000人

病床使用率		
入院	1,384人 /6,919床	
病床使用率	20.0%	

新規陽性者数3,000人(想定) (療養者数30,000人)

区分		人数
入院		約1,400人
宿泊療養		約5,000人
自宅療養		約24,000人
健康	各保健所	約21,000人
観察	都FUC	約24,000人
体制	地域の医療機関	約15,000人

- ・軽症者入院 調整追加
- ・宿泊療養施設 8千室体制
- ・感染拡大時 療養施設開設
- ・発熱相談センター 強化
- ・往診31機関
- ・保健所業務の 重点化
- ·FUC約600名
- ・健康観察 1200機関
- ・パルス20万台
- ·配食5.7万食

感染拡大緊急体制 (1月末~)

#### 病床使用率 2,768人 入院 /6,919床 病床使用率 40.0%

新規陽性者数10,000人(想定) (療養者数100,000人)

区 分	人数	
入院	約2,800人	
宿泊療養	約7,000人	
自宅療養	約90,000人	
各保健所	約21,000人	
都FUC	約50,000人	
地域の医療機関	約15,000人	
療養者自身で 健康観察	約4,000人	
	入院 宿泊療養 自宅療養 各保健所 都FUC 地域の医療機関 療養者自身で	入院 約2,800人 宿泊療養 約7,000人 自宅療養 約90,000人 各保健所 約21,000人 都FUC 約50,000人 地域の医療機関 約15,000人

- 酸素・医療STの 外来、入院待機 機能追加
- ・感染拡大時療養 施設直接申込
- ・入所調整強化
- 自宅療養サポー トセンター開設
- ・入院調整本部に **往診調整機能**
- ・高齢者施設等の 往診体制強化
- ・健康観察 1464機関
- ・パル30万台
- ·配食9.6万食
- 都職員派遣 100名

体制

に移行

# 《感染拡大緊急体制》医療提供体制の強化①

保健∙医療	オミクロン株 特別対応→感染拡大緊急体制		
提供体制	病床確保レベル2	病床確保レベル3	
医療機関		確保病床 6,919床 ※感染者の重症度、病床の使用状況、 一般医療への影響等を考慮して順次実施	
入院待機ST	病床確保レベル3へ 移行	<b>46床</b> (平成立石病院 20床、永生病院 16床、東京北医療センター 10床)	
酸素·医療ST 【施設型】	オミクロン株新規陽性者数が 概ね100人/日以上(7日間平均)	600床 (旧赤羽中央総合病院 150床、築地デポ 191床、調布庁舎 84床、 都民の城 140床、区主導型(練馬) 35床) 自宅療養者の外来機能、病床ひつ迫時における入院待機機能を追加	
酸素·医療ST 【病院型】	又は増加比が概ね300%以上が 2週間継続の場合	120床 (荏原40床、豊島40床、多摩南部地域病院20床、多摩北部医療センター20床)	
感染拡大時 療養施設	原則無症状の陽性者で、家庭内感染の可能性のある方等の入居施設(1/25 350床、2月上旬~ 650床、合計1,000床)		
宿泊療養施設	8,000室確保、さらに11,000室確保。居室確保に向けてさらに調整 入所調整本部を強化(76→146名)		
検査体制	行政検査:1月以降約10万件/日 集中的検査の対象拡大、ベビー	、無料検査:最大3万件/日(店舗拡大、期間延長、DXの推進) -シッターを対象とした検査の実施	

# 《感染拡大緊急体制》医療提供体制の強化②

㑇	₹健•医療	オミクロン株 特別対応→感染拡大緊急体制	
摂	是供体制	病床確保レベル2	病床確保レベル3
発熱相談センターの体制強化(100回線→150回線(1/20~)→200回線(2/1~) さらに増強調整中			
		自宅療養者フォローアップセンターの体制引	歯化(約600名体制に増員中)、自宅療養サポートセンター(うちさぽ東京)を開設
入院調整本部の体制強化(軽症者の入院調整、保健所の支援機能強化、 <b>往診調整機能</b> 等) <b>自宅療養</b> 医療機関による陽性判明直後からの健康観察の促進( <mark>約1,464医療機関</mark> が参画)		)入院調整、保健所の支援機能強化、 <mark>往診調整機能</mark> 等)	
		D健康観察の促進( <mark>約1,464医療機関</mark> が参画)	
	体制	往診体制の強化(都内全域オンライン診疹	療、広域的に実施する医療機関(31 <sub>医療機関</sub> )を指定、 <mark>高齢者施設等の往診体制を強化</mark> )
		経口薬の提供体制の確立(登録済み	タ医療機関 <b>2,552件、発注済み薬局1,505件</b> )
		パルスオキシメーター20万台確保、さ	らに約10万台確保予定、配食サービスの充実(3万→5.7万→9.6万食/週)
		「自宅療養者向けハンドブック」を改	訂、学生寮・部活動で集団感染を防ぐチェックリストの作成
	保健所	業務の重点化移行、 <mark>都職員の派遣</mark>	( <mark>約100名規模</mark> )、見える化やチャットボット、ウェアラブル端末による健康観察を先行実施
	体制	保健所を通さず宿泊療養を希望する	5患者が直接申し込む体制を強化、広報展開
	ワクチン	医療従事者及び高齢者施設入所者	·従事者(R3.12~追加接種(3回目接種)開始)
	等	一般高齡者(R4.1~追加接種開始)。	、警察・消防関係者(1/19~実施)、全体を前倒し、中和抗体薬の投与を推進

# 《感染拡大緊急体制》保健・医療提供体制の全体像



## 緊急体制時の自宅療養者支援について (例: 20,000人規模/日)

区 分	想定人数	,	
入院	_	,'	
宿泊療養	約7,000人	<i>, , ,</i>	
自宅療養	約193,000人		

地域の医療機関(A) 約15,000人 健康観察体制 各保健所で実施(B) ※2万人規模/日では、業務を重点 約7,000人 化し、通常の1/3の健康観察 都フォローアッフ°センター (C) 約50,000人 療養者自身で健康観察(D) 約121,000人 ⇒体調不良を感じた場合、 自宅療養サポートセンター(うちさぽ東京)に連絡

#### 【自宅療養者の対応フロー】

検査医療機関 での健康観察 178,000人 なし

あり 15,000人

入院待機者 又は 保健所でフォローが 必要な有症状者

> 7,000人 あり (=21,000人×1/3)

健康観察(B)

各保健所からSMSでうちさぽ東京を案内 131,000人

50歳以上※ マは 基礎疾患等あり

FUCで

健康観察(C)

40,000人 あり (=171,000人×24.2%)

※50歳以上(17.7%) 基礎疾患等あり(6.5%)

強い症状・ 増悪傾向等

なし

自宅療養サポートセンター

体調不良を

感じた場合に

患者が架電

療養者自身で

健康観察(D)

無症状

軽症

(うちさぽ東京)

10,000人

(=131,000人×FUCアラート率8%)

医療機関で 健康観察(A) 各保健所で

(50.000人)

171,000人

なし

※2万人を大幅に超える場合においても、うちさぽ東京の充実、都フォローアップセンターの年齢により対応可能

# 緊急体制時のフォローアップ体制について①

自宅療養者のうち、症状や年齢要件、基礎疾患がある等リスクが高い方等 に対して、保健所及びフォローアップセンターによる健康観察を実施



# 緊急体制時のフォローアップ体制について②

区分	対 象 者	役 割
医療機関	■受診者	<ul><li>全ての陽性者が医療機関で受診することが前提</li><li>かかりつけ医や地域の医療機関による健康観察</li></ul>
保健所	■ 入院待機者 ■ 保健所でフォローが 必要な有症状者 など	<ul> <li>発生届の内容から自宅療養者を分類</li> <li>自宅療養者全員に、SMSや電話等により、 体調変化時の連絡先などをお知らせ</li> <li>保健所及びフォローアップセンターの対象者、 連絡がつかない自宅療養者に初回架電</li> <li>対象者の健康観察</li> <li>療養期間終了時、対象者に架電</li> </ul>
フォローアップ センター	■ 5 0歳以上 ■ 基礎疾患がある方 など	<ul><li>対象者の健康観察</li><li>配食、パルオシメーター等の全希望者への配布</li><li>療養期間終了時、対象者に架電</li></ul>
自宅療養サポート センター(うちさぽ東京)	・ 上記以外の方	<ul><li>全ての自宅療養者からの連絡を24時間受付 (体調変化時の連絡、配食依頼、様々な相談等)</li><li>自己観察のためのツールを配布</li></ul>

## 感染拡大緊急体制における自宅療養の仕組みについて

入院や療養施設への入所が必要ないと判断された自宅療養者を 対象に、療養者自身が自宅で待機しながら健康観察を行う

### 「感染拡大緊急体制」に切り替え

### 《感染拡大緊急体制》

- ✓ すべての新規陽性者に対し、保健所からSMSや架電等で連絡
- ✓ 保健所、フォローアップセンターなどが健康観察を実施
- ✓ それ以外の症状の軽い方や無症状者の方は、自宅で待機
- **٧ 自主検査結果により医師の判断で確定診断可、オンライン診療の活用**

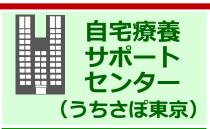
自宅待機中に体調が変化した方等を適切な医療につなげる

# 「自宅療養サポートセンター(うちさぽ東京)」を開設

### 自宅療養サポートセンター(うちさぽ東京)の開設について

- ✓ 自宅療養中に体調が変化した療養者自らの連絡を受け、 健康観察や診療依頼につなげる
- ✓ 自宅療養者の依頼による配食手配や様々な相談等を受け付け





■ 24時間受付

- 最大300回線(予定)
- 連絡先電話番号は 後日公表予定

健康観察

診療依頼

食料品配送依頼

その他相談

診療•検査医療機関

保健所

フォローアップ センター 医療機関が 注診

※医師や保健所の判断により、入院・宿泊施設へ入所

配送事業者

食料品配送

療養中の不安や困り事の相談など

# 感染拡大時療養施設の受入促進について

無症状陽性者の受入れを促進するため、新たに専用のコールセンターを設置

#### 入所対象者

∨ 原則無症状の陽性者で、家庭内感染の可能性のある方等

### 特色

- ✓ 陽性者からの<mark>直接の申込を受ける</mark>ことにより 迅速な受入を実現
- ✓ 24時間の受付体制を構築
- ✓ 施設での夜間受入についても検討

### 受付開始

1/31から受付開始

### 往診体制の強化(複数の陽性者が発生している施設への対策)

- ✓ 複数の陽性者が発生している高齢者施設などに対する往診体制を強化
- ✓ 入居者を施設内で往診治療し、重症化リスクの高い患者の入院者数を抑制



- ・1月22日に、入院調整本部内に新たに往診支援班を設置(3名体制でスタート)
- -同一施設から2人以上の入院調整の依頼があった先を対象

### ベビーシッター利用支援事業等を活用した学校等の臨時休業への対応について (新型コロナウイルス感染症防止のための臨時休業に伴う小学生の居場所確保)

保育園児等を対象とした一時預かりに加え、学校や学童クラブ等の臨時休業に伴う小学生の居場 所を確保するため、ベビーシッターを活用した小学生の一時預かりを実施

#### 事業概要

- ∨ 期間:令和4年1月21日から令和4年3月31日まで
- ✓ 対象:学校や学童クラブ等の臨時休業に伴い居場所の確保が必要な小学生

#### 実施方法

- ∨ 以下の枠組みを活用して区市町村を支援(利用上限は1日8時間とする)
  - ① ベビーシッター利用支援事業 (ベビーシッター事業者連携型)
  - ② ベビーシッター利用支援事業(区市町村バウチャー型)
  - ③ 区市町村認可居宅訪問型保育事業

#### 集中検査の実施

✓ ベビーシッターについては、本事業に加えて集中的検査の対象

## 参考

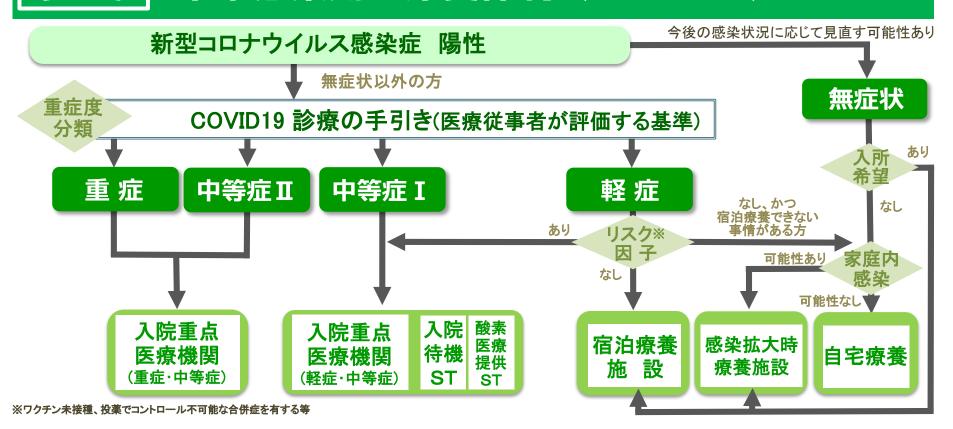
## 感染状況に応じた療養体制について

感染者が置かれている環境や症状の経時的変化、重症化のリスク因子の程度等を考慮し、総合的に判断

区分	市中感染期	感染拡大期	
入院重点医療機関 (重症·中等症)	·重症 ·中等症 Ⅱ	·重症 ·中等症 Ⅱ	
入院重点医療機関 (軽症·中等症)	·中等症 I	・ <u>中等症 II</u> ・中等症 I <u>(リスク因子あり)</u> ・軽症(リスク因子あり)	
入院待機ステーション	- 中寺近 1 ・軽症(リスク因子あり)	・中等症 I <u>(リスク因子あり)</u> ・軽症(リスク因子あり)	
酸素・医療提供ステーション		・中等症 I・軽症(リスク因子あり)	
宿泊療養施設	・軽症(リスク因子なし) ・無症状(入所希望あり)	・ <u>中等症 I (リスク因子なし)</u> ・軽症(リスク因子なし・ <u>家庭内感染の可能性あり</u> ) ・無症状 <u>(家庭内感染の可能性あり)</u>	
感染拡大時療養施設	・無症状(家庭内感染の可能性あり・入所希望あり)	・無症状(家庭内感染の可能性あり) ・軽症(リスク因子なし・家庭内感染の可能性あり)	
自宅療養 ・無症状(家庭内感染の可能性なし)		・軽症(リスク因子なし・家庭内感染の可能性なし) ・無症状(家庭内感染の可能性なし)	
保健所、フォローアップ センター等の健康観察	SMS送信、初回架電、毎日の健康観察	SMS送信、初回架電 <u>(①入院の恐れのある方等、②50歳以上又は基礎疾患ありの方等、③SMS不通者)</u> 、毎日の健康観察 <u>(①と②)</u>	

### 参考

### 市中感染期の療養体制(イメージ)



### 参考

## 感染拡大期の療養体制(イメージ)

